

授業科目	保育・教職者論	担当教員	長谷川 香		
対象年次・学期	2年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15回	時間数	30時間
授業目的	保育者とは何か、大切にしなければならないこと、その役割について学ぶ。				
到達目標	専門職としての保育者の役割について説明することができる。				
テキスト・参考図書等	授業内でプリント配布				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	レポート、提出物、グループワーク参加状況を総合して評価します		
	レポート	50			
	小テスト	0			
	提出物	30			
	その他	20			
履修上の留意事項	板書・プリント資料などを使用します。様々な保育の現場について、ゲストスピーカーからお話を聞きながら、保育者としての在り方について考えてほしいと思います。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	学習の進め方 保育士の制度的位置付け		
	2	保育者の専門性	保育者に求められる側面：児童福祉施設①(保育所)		
	3	保育者の専門性	保育者に求められる側面：児童福祉施設②(児童入所施設)		
	4	保育者の専門性	保育者に求められる側面：児童福祉施設③(児童厚生施設)		
	5	保育者の専門性	保育者に求められる側面：幼稚園		
	6	保育者の専門性	保育者に求められる側面：認定こども園		
	7	保育者の専門性	子育て支援の実際、今後の課題		
	8	保育者の専門性	支援が必要な子どもの理解、児童デイサービスの現状		
	9	保育者の専門性	支援が必要な子ども、家庭との関わり		
	10	保育者の専門性	保育者と専門機関との連携の必要性、児童相談所一時保護保育の実際		
	11	保育者の役割と倫理	保育者の役割、倫理、保育という職業		
	12	保育者の資質向上とキャリア形成	保育現場での協働、保育の場における学び		
	13	保育者の資質向上とキャリア形成	支援者としての役割：果たすべき役割と求められる資質		
	14	保育者の資質向上とキャリア形成	支援者としての役割：望ましい保育者像		
15	まとめ	まとめ 振り返り			



授業科目	福祉保育の実践	担当教員	長谷川 香		
対象年次・学期	2年・後期	必修・選択区分	選択必修	単位数	
授業形態		授業回数	15回	時間数	30時間
授業目的	障がいをもつ児童との関わりを通し、保育士の役割や障がいの特性などについて学ぶ				
到達目標	障がいと発達について学び、援助の展開や、具体的な実践ができるようになる				
テキスト・参考図書等					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	グループワークの参加状況、実践への準備また実践での取り組み状況、提出物等を総合して評価します。		
	レポート	10			
	小テスト	0			
	提出物	30			
	その他	60			
履修上の留意事項	講義・板書・プリント・演習等、社会的養護で学んだことを基に、その実際についてより学びを深めます。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	社会的養護とは	オリエンテーション		
	2	児童福祉施設との連携について	各種別施設との連携		
	3	障がい児との関わりの実践1	児童デイサービスでの実践		
	4	障がい児との関わりの実践1	児童デイサービスでの実践		
	5	障がい児との関わりの実践1	児童デイサービスでの実践		
	6	障がいの理解と自己課題	実践の振り返り・まとめ		
	7	障がい児の保育	実施計画の作成・手作りおもちゃ作成		
	8	障がい児の保育	実施計画の作成・手作りおもちゃ作成		
	9	障がい児との関わりの実践2	児童デイサービスでの実践		
	10	障がい児との関わりの実践2	児童デイサービスでの実践		
	11	障がい児との関わりの実践2	児童デイサービスでの実践		
	12	障がいと発達の理解	自己評価・報告書まとめ		
	13	障がいと発達の理解	発表準備		
	14	障がいと発達の理解	発表		
15	まとめ	振り返り			



授業科目	こどもと身体表現	担当教員	上山 七々子		
対象年次・学期	2年・後期	必修・選択区分	選択必修	単位数	
授業形態		授業回数	15回	時間数	30時間
授業目的	幼児期における身体表現の役割と必要性を理解し、さまざまな方法と指導法を学び、実践する。				
到達目標	身体表現について興味関心を持ち、自ら進んで表現するとともに、こどもに対し、身体表現を指導し、実践することができる。				
テキスト・参考図書等	授業内で資料を配布します。				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	<提出物> 提出期限・内容についての評価 <その他> 課題への積極性・創意工夫・チームワーク・実践授業の参加状況による総合評価		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	30			
その他	70				
履修上の留意事項	実技を中心に行います。運動に適した動きやすい服装で授業に参加してください。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	幼児期における身体表現の意味		
	2	さまざまな表現あそび	マネっこあそびと表現		
	3	〃	道具を使った表現		
	4	〃	音のイメージに合わせた表現		
	5	〃	様々なダンス		
	6	〃	集団での表現方法		
	7	音楽に合わせたダンス	こどものダンス		
	8	〃	こどものダンス（応用）		
	9	〃	幼児向けダンスの振り付け方法		
	10	テーマに合わせた創作	行事によるテーマ・選曲方法		
	11	〃	構成の考え方		
	12	〃	構成から振り付けへ		
	13	〃	振り付け構成		
	14	〃	発表		
15	まとめ	鑑賞・評価			



授業科目	こども家庭支援の心理学		担当教員	佐々木 明美	
対象年次・学期	2年・前期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15回	時間数 30時間
授業目的	子どもの育ちを踏まえた家庭支援の意義について理解を深める。				
到達目標	発達的な観点から、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を持つことができる。				
テキスト・参考図書等	保育の心理学/ 長谷部比呂美・日比暁美・山岸道子・吉村真理子/ ななみ書房 (1年次「保育の心理学」使用テキスト) 【参考図書】 子ども家庭支援の心理学/ 松本園子・永田陽子・長谷部比呂美・日比暁美・堀口美智子著/ ななみ書房				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	60	定期試験、提出物、グループワーク参加状況を総合して評価します		
	レポート	10			
	小テスト	0			
	提出物	10			
その他	20				
履修上の留意事項	板書、プリント、必要時に視聴覚教材を使用します。ディスカッションには、積極的に参加してください。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	講義の進め方		
	2	生涯発達(1)	乳幼児期から学童期にかけての発達		
	3	生涯発達(2)	青年期から成人期・老年期にかけての発達		
	4	子どもの精神保健とその課題(1)	子どもの生活・生育環境とその影響		
	5	子どもの精神保健とその課題(2)	子どもの心の健康に関わる問題		
	6	家族・家庭の理解(1)	家族・家庭の意義と機能		
	7	家族・家庭の理解(2)	親子関係・家族関係の理解		
	8	家族・家庭の理解(3)	ライフコースと仕事・子育て		
	9	家族・家庭の理解(4)	多様な家庭とその理解		
	10	家族・家庭の理解(5)	特別な配慮を要する家庭		
	11	子育て家庭に関する現状と課題(1)	子育てを取り巻く社会的状況① 現状把握		
	12	子育て家庭に関する現状と課題(2)	子育てを取り巻く社会的状況② 課題の整理		
	13	子育て家庭に関する現状と課題(3)	子育てを取り巻く社会的状況③ まとめ		
	14	子育て家庭に関する現状と課題(4)	子育てを取り巻く社会的状況④ 発表		
15	まとめ	まとめ・振り返り			

授業科目	こども家庭支援の心理学	担当 教員  実務 経験	長谷川香  有：□ 無：■	
対象年次・学期	2年・前期	担当 教員		
授業形態		実務 経験		
		担当 教員  実務 経験		
		担当 教員  実務 経験		
		担当 教員  実務 経験		
		担当 教員  実務 経験		
		担当 教員  実務 経験		
		担当 教員  実務 経験		
		担当 教員  実務 経験		
		担当 教員  実務 経験		
		担当 教員  実務 経験		



授業科目	タッチレッスンⅢ		担当教員	上山 七々子	
対象年次・学期	2年・通年		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15回	時間数 30時間
授業目的	1. 1年次で学んだことを基礎とし、企画、運営の実践力及び総合的な表現力を養う。 2. 保育や福祉に関する施設の理解を深める。また、専門分野における実践的な技術や知識を学ぶ。				
到達目標	1. 1年次の基礎を生かし、自分たちで企画、運営、実践することができる。 2. 保育や福祉施設について理解し、専門分野における技術や知識を習得する。				
テキスト・参考図書等					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	見学や体験の参加態度、表現、見学・体験・鑑賞のレポート、グループでの発表等を総合して成績評価を行います。		
	レポート	40			
	小テスト	0			
	提出物	0			
その他	60				
履修上の留意事項	グループ活動、及び表現活動、学外施設の見学や鑑賞及び体験等、この科目は、感性を豊かにすること・実体験を通して保育現場での即戦力となる知識や技能を養うことを第一の目標にしています。豊かな感性で、子どもの気持ちを受け止めることができるために必要な授業です。積極的に行動し、心から楽しんで参加して、いろいろな経験をしましょう。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	感受性を育てる	観劇1を通して、感性を養う		
	2	感受性を育てる	観劇2を通して、感性を養う		
	3	感受性を育てる	芸術鑑賞を通して、感性を養う		
	4	行事企画	音楽合同発表会		
	5	企画、運営の実践	1年生を迎える会の企画運営をし、実践力を養う		
	6	企画、運営の実践	1年生を迎える会の企画運営をし、実践力を養う		
	7	ボランティア①	子育て支援活動企画・実践		
	8	ボランティア②	子育て支援活動企画・実践		
	9	保育や福祉に関する理解を深める	姉妹校連携授業1(こどもの歯科衛生)		
	10	保育や福祉に関する理解を深める	姉妹校連携授業2(こどもの視覚障害)		
	11	保育や福祉に関する理解を深める	実習報告会(保育所)		
	12	保育や福祉に関する理解を深める	実習報告会(保育所)		
	13	保育や福祉に関する理解を深める	実習報告会(施設)		
	14	保育や福祉に関する理解を深める	実習報告会(施設)		
15	まとめ	まとめ 振り返り			



授業科目	保育制作		担当教員	平原 由衣		
対象年次・学期	2年・後期		必修・選択区分	選択必修	単位数	
授業形態			授業回数	15回	時間数	30時間
授業目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・玩具、遊具、遊びについての理解を深め、乳幼児の発達を促す保育教材を制作する。</li> <li>・保育の現場で実践できる保育教材の制作を行い、展開方法や演じ方を学び、身に付ける。</li> <li>・こどもの年齢や発達に合わせた制作、季節や行事に関わる制作などのアイデアを学び、現場で活かせるようにする。</li> </ul>					
到達目標	乳幼児の年齢別発達を理解し心身共に成長を促す玩具・遊具などの制作ができる。					
テキスト・参考図書等						
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	0	授業態度作品、作品制作に対する意欲・工夫、発表、レポート・提出物による総合評価			
	レポート	10				
	小テスト	0				
	提出物	70				
その他	20					
履修上の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・玩具、遊具、遊びについての理解を深め、乳幼児の発達を促す保育教材を制作する。</li> <li>・身近な素材を使った手作り玩具などを制作し現場に出る際の実践に役立てる。</li> </ul>					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容			
	1	オリエンテーション 遊びの特性	授業の説明 ・乳幼児の遊びと手づくり遊具の必要性 ・現場における保育教材の活用の仕方について			
	2	手作り遊具1 手作り遊具の制作	企画・立案（ストーリー性のあるものを制作する）			
	3	手作り遊具1 手作り遊具の制作	作品制作			
	4	手作り遊具1 手作り遊具の制作	作品制作			
	5	手作り遊具1 手作り遊具の制作	作品制作			
	6	手作り遊具1 手作り遊具の制作	発表と振り返り			
	7	保育園でおこなわれている季節の制作	身近な素材を利用し通年で行われる制作を行う			
	8	保育園でおこなわれている季節の制作	身近な素材を利用し通年で行われる制作を行う			
	9	保育園でおこなわれている季節の制作	身近な素材を利用し通年で行われる制作を行う			
	10	手作り遊具2 子ども達が参加できる保育教材の制作	企画・立案(クイズなど参加型で楽しめるものを制作)			
	11	手作り遊具2 子ども達が参加できる保育教材の制作	作品制作			
	12	手作り遊具2 子ども達が参加できる保育教材の制作	作品制作			
	13	手作り遊具2 子ども達が参加できる保育教材の制作	作品制作			
	14	手作り遊具の発表	発表と振り返り			
15	授業の振り返りとまとめ	授業のまとめ				





授業科目	こども家庭支援論	担当教員	佐々木 明美		
対象年次・学期	2年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15回	時間数	30時間
授業目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>子ども家庭支援の意義、役割、支援体制・内容を学ぶ。</li> <li>子ども家庭支援における保育者の基本姿勢や相談援助の方法を学ぶ。</li> </ul>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育士が行う子育て家庭に対する支援の意義・目的を述べることができる。</li> <li>子育て家庭に対する支援の体制を述べるができる。</li> <li>子育て家庭のニーズに応じた多様な支援内容、子ども家庭支援の現状と課題を述べるができる。</li> </ul>				
テキスト・参考図書等	<b>【参考図書】</b> 新基本保育シリーズ⑤子ども家庭支援論 松原康雄・村田典子・南野奈津子編著 中央法規				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	60	定期試験を中心に、提出物やワークの取り組み状況等、総合的に評価します。		
	レポート	0			
	小テスト	20			
	提出物	10			
その他	10				
履修上の留意事項	講義はレジュメや配布資料に沿って行う。その他グループで討論したり、感想をリアクションペーパーで提出することもあります。日頃から子ども家庭福祉に関する報道をチェックしておくよう心がけてください。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション 子ども家庭支援の意義と必要性	子育て支援の制度の概要		
	2	子育て家庭の福祉を図るための社会資源	社会資源の活用と現状		
	3	保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義	保育の専門性と相談援助の関連性		
	4	子どもの育ちの共有	子どもの育ちと保育所保育指針、幼稚園教育要領		
	5	保育士に求められる基本的態度	保護者との信頼関係、支援に必要な保育士に求められる基本的態度		
	6	家庭の状況に応じた支援	家庭の状況に応じた支援と保育者の役割		
	7	地域資源、関係機関との連携・協力	地域の多様な資源の活用と自治体・関連機関との連携・協力		
	8	子ども家庭支援の内容と対象	子ども家庭支援の具体的な対象、内容とアプローチ方法、支援の形態		
	9	要保護児童とその家庭に対する支援	要保護児童の現状と家庭への支援		
	10	子ども家庭支援の目的と機能	児童福祉法、保育所保育指針、幼稚園教育要領とこども家庭支援		
	11	子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進	子ども家庭福祉の施策体系、子ども・子育て支援新制度の枠組み、実施体制		
	12	保護者及び地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援	保護者および地域が有する力の向上と保育士に求められる視点		
	13	保育所等を利用する子ども家庭への支援	保育所等の相談支援機能と保育ソーシャルワーク		
	14	地域の子育て家庭への支援	地域で子育てをしている家庭への支援		
15	子育て支援に関する課題と展望 まとめ	多様化する子育てニーズと支援			



授業科目	保育実習指導 II	担当教員	平原 由衣		
対象年次・学期	2年・通年	必修・選択区分	選択必修	単位数	
授業形態		授業回数	15回	時間数	30時間
授業目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習の意義を学び、学外での実習準備としての日誌の指導計画等を学ぶ。</li> <li>・保育実習 II を踏まえたうえで、実習の総括や自己評価を行い、課題や学習目標を明確にする。</li> </ul>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前指導で学んだことを生かし実習で実践できるようにする。</li> <li>・実習後の自己評価や振り返りをしっかり行い、より良い保育者となるための課題を整理、表現できる。</li> </ul>				
テキスト・参考図書等	フォトランゲージで学ぶ子どもの育ちと実習日誌・指導計画/神永直美/萌文書林				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	授業態度・グループワークや作業に対する参加意欲、提出物等を総合的に評価する。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	60			
その他	40				
履修上の留意事項	<p>板書、プリント、DVD等、実習は今までに学んだことを実際の保育の場で実践し、成果を確かめる機会です。厳しい実体験の中から学校では得られない 貴重な事柄をたくさん学びます。身に付いていること、さらに高めなければならないことを整理して残り少ない期間を有効に過ごしましょう。</p>				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	実習の意義と目標・概要・心構え・実習目標の設定		
	2	保育所実習について	実習記録の意義、実習評価、巡回時などについて		
	3	保育所実習について	礼状の書き方、必要書類の記入・確認		
	4	保育所実習について	オリエンテーションについての注意事項		
	5	部分実習について	年齢別の部分実習の説明と体験 [製作]		
	6	部分実習について	年齢別の部分実習の説明と体験 [製作]		



7	保育実習日誌について	日誌記入等についての指導
8	保育所実習へ向けた総括	実習生の心得・注意、実習ファイル、実習報告書等、関係書類の確認
9	まとめ①	実習報告会（グループワーク）・反省会・個別指導・礼状の送付
10	〃	実習報告会（グループワーク）・反省会・個別指導
11	〃	実習報告会（グループワーク）・反省会・個別指導
12	まとめ②	実習報告会（グループワーク）・個別指導
13	〃	実習報告会（グループワーク）・個別指導
14	〃	実習報告会（グループワーク）・個別指導
15	実習の振り返りとまとめ	実習の振り返りとまとめ



授業科目	こどもの理解と援助	担当教員	長谷川 香		
対象年次・学期	2年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15回	時間数	30時間
授業目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもを理解する視点および、保育現場における援助の実際について学ぶ。</li> <li>・子ども理解が保育にどのようにかわるのかを学ぶ。</li> </ul>				
到達目標	具体的援助について、事例を通して学びながら、保育実践において応用することができる。				
テキスト・参考図書等	<b>【参考図書】</b> 子どもの理解と援助/ 清水益治・森俊之編著/ 中央法規 保育所保育指針解説 平成30年3月/ 厚生労働省編/ フレーベル館 保育の心理学/ 長谷部比呂美・日比暁美・山岸道子・吉村真理子/ ななみ書房 (1年次「保育の心理学」使用テキスト)				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	60	定期試験、提出物、グループワーク参加状況を総合して評価します		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	30			
その他	10				
履修上の留意事項	板書、テキスト及びプリント、必要時に視聴覚教材を使用します。ディスカッションには、積極的に参加してください。子どもを理解するためには、心の発達など心理学的基礎知識は必要不可欠です。それらが保育実践のなかでどのようにいかされていくのか考えながら学んでほしいと思います。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	講義の進め方 領域「人間関係」の理解		
	2	子どもの実態に応じた発達や学びの把握(1)	保育における子どもの理解の意義		
	3	子どもの実態に応じた発達や学びの把握(2)	子どもの理解に基づく養護及び教育の一体的展開		
	4	子どもを理解する視点(1)	人的環境としての保育者と子どもの発達		
	5	子どもを理解する視点(2)	子どもの生活や遊びと人間関係		
	6	子どもを理解する視点(3)	子ども相互の関わりと関係づくり、集団における経験と育ち		
	7	子どもを理解する視点(4)	葛藤やつまずき		
	8	子どもを理解する方法(1)	観察、記録、省察、評価		
	9	子どもを理解する方法(2)	評価の実際		
	10	子どもを理解する方法(3)	職員間・保護者との情報共有		
	11	子どもの理解に基づく発達援助(1)	発達の連続性と就学への支援		
	12	子どもの理解に基づく発達援助(2)	発達の課題に応じた援助と関わり		
	13	子どもの理解に基づく発達援助(3)	特別な配慮を要する子どもの理解と援助①		
	14	子どもの理解に基づく発達援助(4)	特別な配慮を要する子どもの理解と援助②		
15	まとめ	まとめ			



授業科目	こどもと絵本	担当教員	平原 由衣		
対象年次・学期	2年・後期	必修・選択区分	選択必修	単位数	
授業形態		授業回数	15回	時間数	30時間
授業目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言語発達に基づくコミュニケーション力や創造性を育成する絵本文化の理解を深める。</li> <li>・手作りの絵本製作をおこなう。</li> </ul>				
到達目標	こどもの年齢や発達に合った絵本の製作ができるようになる。				
テキスト・参考図書等					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	授業態度や製作に対する意欲や工夫、提出物、製作物による総合評価		
	レポート	10			
	小テスト	0			
	提出物	80			
その他	10				
履修上の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・こどもたちに絵本の楽しさを伝えられるよう、種類や特徴、年齢なりに合った選び方等しっかりと学びましょう。</li> <li>・保育者として現場でも活用していけるような作品を製作しましょう。</li> </ul>				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション 絵とことばの豊かな世界を楽しむ	授業についての説明 こどもにとっての絵本とは		
	2	様々な手作り絵本に触れる①	いろいろな素材の手作り絵本に触れて楽しむ①		
	3	様々な手作り絵本に触れる②	いろいろな素材の手作り絵本に触れて楽しむ②		
	4	手作り絵本を楽しむ① 保育者の手作り絵本	絵本の企画・立案(幼児向け)		
5	手作り絵本を楽しむ① 保育者の手作り絵本	絵本制作			

6	手作り絵本を楽しむ① 保育者の手作り絵本	絵本制作
7	手作り絵本を楽しむ① 保育者の手作り絵本	絵本制作
8	手作り絵本を楽しむ① 保育者の手作り絵本	絵本制作
9	手作り絵本を楽しむ① 保育者の手作り絵本	絵本の発表と振り返り
10	手作り絵本を楽しむ② 保育者の手作り絵本	ミニ絵本の企画・立案(乳児向け)
11	手作り絵本を楽しむ② 保育者の手作り絵本	ミニ絵本の制作
12	手作り絵本を楽しむ② 保育者の手作り絵本	ミニ絵本の制作
13	手作り絵本を楽しむ② 保育者の手作り絵本	ミニ絵本の制作
14	手作り絵本を楽しむ② 保育者の手作り絵本	発表と振り返り
15	まとめ	授業の振り返りとまとめ



授業科目	ことばと造形	担当教員	浦島 葉子		
対象年次・学期	2年・前期	必修・選択区分	選択必修	単位数	
授業形態		授業回数	15回	時間数	30時間
授業目的	・年齢に合わせた製作実践を学び、製作活動の楽しい展開方法を考える。				
到達目標	・子どもの手指の発達を理解し、子どもの発達年齢に合った製作活動の指導計画を立案、実践ができる。				
テキスト・参考図書等					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	提出物・グループワーク参加状況を総合して評価します。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	80			
	その他	20			
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	こどもの手指の発達、製作の基礎を知る		
	2	発達年齢に沿った理解	製作活動の準備		
	3	発達年齢に沿った理解	製作活動の準備		
	4	発達年齢に沿った理解	製作活動の準備・シミュレーション		
	5	保育園実践	子ども達の実際の反応を知り、理解を深める		
	6	振り返り	グループワーク（保育園実践を踏まえての指導案立案における再考）活動準備		
	7	発達年齢に沿った理解	保育園実践準備、留意点等		
	8	指導案立案	保育園実践準備、留意点等		
	9	指導案立案	保育園実践準備・シミュレーション		
	10	保育園実践	子ども達の実際の反応を知り、理解を深める		
	11	指導案立案	3, 4, 5歳児での指導案立案、準備		
	12	指導案立案	3, 4, 5歳児での指導案立案、準備		
	13	指導案立案	3, 4, 5歳児での指導案立案、準備		
	14	指導案立案	3, 4, 5歳児での指導案立案、準備		
15	まとめ	グループワーク			



授業科目	ことばと造形	担当 教員  実務 経験	浦島葉子  有： <input checked="" type="checkbox"/> 無： <input type="checkbox"/>	幼稚園教諭として幼稚園に勤務
対象年次・学期	2年・前期	担当 教員		
授業形態		実務 経験		
		担当 教員  実務 経験		
		担当 教員  実務 経験		
		担当 教員  実務 経験		
		担当 教員  実務 経験		
		担当 教員  実務 経験		
		担当 教員  実務 経験		
		担当 教員  実務 経験		
		担当 教員  実務 経験		
		担当 教員  実務 経験		

授業科目	保育・教職実践演習		担当教員	浦島 葉子	
対象年次・学期	2年・通年		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	30回	時間数 60時間
授業目的	各科目の学習状況を踏まえそれぞれの到達度を確認し、自己課題を発見する。保育者として求められる資質、能力を確認し、行事を企画、構成し実践する過程において協調性・創造性・積極性を養う。				
到達目標	将来保育現場において柔軟に対応していけるような実践的な指導能力を身につける。また、行事の企画運営ができる。				
テキスト・参考図書等					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	提出物、課題の理解、グループワークでの協調性・積極性、実践への参加状況		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	20			
	その他	80			
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	教科の趣旨及び内容について 保育者に求められる資質・能力について・自己課題の抽出		
	2	行事企画・準備について	ポスター・カード制作 (デザイン案・役割分担・計画)		
	3	〃	ポスター・カード制作 (制作作業)		
	4	〃	〃		
	5	〃	〃		
	6	〃	〃		
	7	演目・構成について	台本読み合わせ・各種分担について		
	8	〃	各役割による立案		
	9	〃	創作活動		
	10	〃	〃		
	11	〃	〃		
	12	〃	〃		
	13	〃	制作物の進捗状況を確認し今後の活動を検討する(各担当)		
	14	中間評価と目標の再確認	再検討した内容を改善し各役割で準備を継続する		
	15	発表に向けての取り組み	全体の流れや内容の精査		
	16	〃	各グループ通し稽古		
	17	〃	各グループ通し稽古		
	18	〃	全体練習		
	19	〃	会場設営		
	20	〃	全体練習		
	21	〃	全体練習		
22	〃	最終リハーサル			

	23	//	最終リハーサル
	24	//	合同リハーサル
	25	行事開催	姉妹園参加（年長児）の行事实施・振り返り
	26	振り返り	開催時の映像を見て各グループで反省と意見交換
	27	振り返り	意見交換を基に実践の記録を行い反省内容や課題を視覚化する
	28	振り返り	意見交換を基に実践の記録を行い反省内容や課題を視覚化する
	29	振り返り	振り返り内容の発表
	30	まとめ	自己評価・2年間の学びを振り返る



授業科目	保育実習Ⅰ(施設)	担当教員	長谷川 香		
対象年次・学期	2年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	45回	時間数	90時間
授業目的	観察や子どもとの実際の関わりを通して子どもへの理解を深めるとともに、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に学ぶ				
到達目標	現場実習を通して、施設や保育士の役割、利用者の様子などについて理解を深める				
テキスト・参考図書等	実習要項				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験		実習先からの評価、訪問指導時の準備・態度・報告内容、提出物等をもとに総合的に評価する		
	レポート				
	小テスト				
	提出物	30			
その他	70				
履修上の留意事項	詳細は実習要項に記載				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	施設の役割と機能	施設における子どもの生活と保育士の援助や関わり		
	2	施設の役割と機能	施設の役割と機能		
	3	こどもの理解	こどもの観察とその記録		
	4	こどもの理解	個々の状態に応じた援助や関わり		
	5	施設における子どもの生活と環境	計画に基づく活動や援助		
	6	施設における子どもの生活と環境	子どもの心身の状態に応じた生活と対応		
	7	施設における子どもの生活と環境	子どもの活動と環境		
	8	施設における子どもの生活と環境	健康管理、安全対策の理解		
	9	計画と記録	支援計画の理解と活用		
	10	計画と記録	記録に基づく省察・自己評価		
	11	専門職としての保育士の役割と倫理	保育士の業務内容		
	12	専門職としての保育士の役割と倫理	保育士の業務内容		
	13	専門職としての保育士の役割と倫理	職員間の役割分担や連携		
	14	専門職としての保育士の役割と倫理	職員間の役割分担や連携		
15	専門職としての保育士の役割と倫理	保育士の役割と職業倫理			



授業科目	地域ボランティア論	担当教員	長谷川 香		
対象年次・学期	2年・後期	必修・選択区分	選択	単位数	
授業形態		授業回数	15回	時間数	30時間
授業目的	ボランティア活動に関する基本的知識、考え方、および活動が持つ社会的役割や社会貢献について学ぶ。				
到達目標	ボランティア活動の意義を理解した上で、社会、地域への貢献について考えを持ちボランティアに参加することができる。また、多様なボランティア活動の事例について知り、人や地域社会とのつながりについて、自分自身の考えを述べることができる。				
テキスト・参考図書等					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	ボランティア活動への参加状況・報告レポート、提出物、グループワーク参加状況を総合して評価します		
	レポート	30			
	小テスト	0			
	提出物	40			
	その他	30			
履修上の留意事項	板書、プリント、必要時に視聴覚教材を使用します。ボランティア活動上の注意事項を守り、自己課題を意識してボランティア活動に参加してください。また、ディスカッションには積極的に参加してください。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	講義の進め方		
	2	ボランティア概論	ボランティア活動の基本		
	3	ボランティア活動の意義	ボランティア活動の実際①		
	4	ボランティア活動の意義	ボランティア活動の実際②		
	5	ボランティア活動の心得	ボランティア目標設定、活動計画書の作成、活動準備		
	6	ボランティア活動の実際①	ボランティア活動		
	7	ボランティア活動の実際①	ボランティア活動		
	8	ボランティア活動の実際②	ボランティア活動		
	9	ボランティア活動の実際②	ボランティア活動		
	10	ボランティア活動の実際③	ボランティア活動		
	11	ボランティア活動の実際③	ボランティア活動		
	12	ボランティア活動記録・振り返り	自己評価・報告書まとめ		
	13	ボランティア活動記録・振り返り	ボランティア活動報告会準備		
	14	ボランティア活動の評価・反省	ボランティア活動報告会		
15	まとめ	振り返り・課題の整理			





授業科目	こどもの食と栄養		担当教員	小松 留美	
対象年次・学期	2年・前期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	23回	時間数 45時間
授業目的	小児期の栄養と食生活が生涯にわたる健康と生活の基礎であること、及び栄養の基本的知識や食生活全般について学ぶ。				
到達目標	栄養の基礎的知識を身に付け、保育における食育の意義・目的、基本的考え方を理解し、日常の保育の中で実践できる。				
テキスト・参考図書等	「子どもの食と栄養」 堤ちはる 土井正子編著 萌文書林 「新食品成分表 FOODS」 新食品成分表編集委員会 東京法令出版				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	80	定期試験・提出物・演習時の参加状況を総合して評価する。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	10			
その他	10				
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	子どもの健康と食生活の意義	食生活の現状と課題		
	2	〃	子どもの心身の健康		
	3	栄養に関する基本的知識	栄養素・栄養生理・代謝に関する基本的知識		
	4	〃	食事摂取基準と献立作成・調理の基本、食事バランスガイド		
	5	子どもの発育・発達と食生活	乳児期の授乳・離乳の意義と食生活		
	6	〃	幼児期の心身の発達と食生活		
	7	〃	学童期・思春期・妊娠期の心身の発達と食生活		
	8	〃	生涯発達と食生活、成人期、高齢期		
	9	食育の基本と内容	保育における食育の意義、食育の内容と計画及び評価		
	10	〃	食育のための環境、地域の関係機関や職員間の連携、保護者への支援		
	11	家庭や児童福祉施設における食事と栄養	家庭における食事と栄養		
	12	〃	児童福祉施設における食事と栄養		
	13	特別な配慮を要する子どもの食と栄養	疾病および体調不良、障がいのある子どもへの対応		
	14	〃	食物アレルギーのある子どもへの対応		
	15	調理室の使い方	調理室の使用法（調理室にて）		
	16	基礎調理	離乳期（大人の食事からのとり分け）		
	17	基礎調理	離乳期（大人の食事からのとり分け）		
	18	基礎調理	幼児期（園の給食）		
	19	基礎調理	幼児期（園の給食）		
	20	基礎調理	幼児期（クッキング保育）		
21	基礎調理	幼児期（クッキング保育）			

	22	基礎調理	幼児期（アレルギー食）
	23	基礎調理	幼児期（アレルギー食）、まとめ



授業科目	こどもとリズム表現	担当教員	櫻井 かおる		
対象年次・学期	2年・前期	必修・選択区分	選択必修	単位数	
授業形態		授業回数	15回	時間数	30時間
授業目的	1年次で経験した4、5歳児でのリトミックの実践を踏まえ、グループでの実践から1人での実践が行えるように知識と技術を学ぶ。 こどもにつけさせたい力を意識した活動を理解し、指導内容を考察する。拍子・ニュアンス・即時的な反応・音の聴き分け・歌唱等を学ぶ。				
到達目標	3、4、5歳の発達に合わせた指導案を立案することができる。保育園でのリトミック実践を1人～2人で行うことができる。				
テキスト・参考図書等					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	・指導案作成の取り組み状況・実践授業への参加状況・振り返り内容の精査状況		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	40			
その他	60				
履修上の留意事項	授業だけでなく継続したピアノ練習やリズム練習が必要です				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	1年次において習得した内容の確認 今後の授業の進め方について		
	2	基礎リズムの理解・指導案の理解	基礎リズムをステップする ボディーパーカッション		
	3	指導案作成①	4、5歳児の活動を考える。3人程度で実践に向けた練習		
	4	保育園実践①	4.5歳児の活動を3人で行う		
	5	保育園実践①	〃		
	6	振り返り	録画を見ることからこどもの発達の様子を確認 活動内容の精査		
	7	指導案作成②	4、5歳児の活動を考える。2人程度で行う実践に向けた練習		
	8	保育園実践②	4.5歳児の活動を2人で行う		
	9	保育園実践②	〃		
	10	振り返り・即興について	振り返り、活動にあった即興演奏の理解と練習		
	11	指導案作成③	4、5歳児の活動を考える。2人程度で実践に向けた練習		
	12	保育園実践③	4.5歳児の活動を1～2人で行う		
	13	保育園実践③	〃		
	14	振り返り	録画された自身の指導を確認する。そこからさらに指導を向上するための方法を考察する		
15	まとめ	今までの実践の振り返りを行う。保育現場において一人で活動する場合の課題を明確化する。リトミックが子どもにどのような効果をもたらすか考察する			



授業科目	こどもと音楽	担当教員	櫻井 かおる		
対象年次・学期	2年・後期	必修・選択区分	選択必修	単位数	
授業形態		授業回数	15回	時間数	30時間
授業目的	幼児にとって必要な音楽環境の一つとしての楽器演奏と歌唱の技術、その展開方法を学ぶ。				
到達目標	保育園などで使用可能な楽器の使用や適切な演奏ができる。合奏譜を理解し役割に応じた演奏ができる。行事や季節に合った曲の選択、指導ができる。				
テキスト・参考図書等	プリント配布				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	・器楽合奏演奏能力・指導案作成内容、提出状況		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	40			
その他	60				
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	保育園での音楽活動について		
	2	器楽合奏①-1 合唱①-1	音楽活動の実践計画①-1		
	3	器楽合奏①-2 合唱①-2	音楽活動の実践計画①-2		
	4	器楽合奏②-1 合唱②-1	音楽活動の実践計画②-1		
	5	器楽合奏②-2 合唱②-2	音楽活動の実践計画②-2		
	6	器楽合奏③-1 合唱③-1	音楽活動の実践計画③-1		
	7	器楽合奏③-2 合唱③-2	音楽活動の実践計画③-2		
	8	子どものうた①	季節のうたについて、こどものうたをうたう、曲による活動の可能性を探る		
	9	子どものうた②	季節のうたについて、こどものうたをうたう、曲による活動の可能性を探る		
	10	実践活動内容確認・計画	役割分担確認		
	11	実践活動内容確認・計画	役割担当毎の練習		
	12	実践活動内容確認・計画	子どもと行う器楽合奏についての考察と調整		
	13	実践活動内容確認・計画	実践時の流れ確認・練習		
	14	実践活動内容確認	実践		
15	まとめ	振り返り・まとめ			



授業科目	保育実習指導Ⅲ		担当教員	長谷川 香	
対象年次・学期	2年・前期		必修・選択区分	選択必修	単位数
授業形態			授業回数	15回	時間数 30時間
授業目的	実習の意義を学び、学外での実習準備としての日誌の記録や指導計画等を学ぶ。 保育実習Ⅰを踏まえたうえで、実習の総括や自己評価を行い、課題や学習目標を明確にする。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前指導で学んだことを活かし実習で実践できる</li> <li>・実習後の自己評価や振り返りをしっかり行い、より良い保育者となるための課題を整理、表現できる。</li> </ul>				
テキスト・参考図書等					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	調べ学習の取り組み状況、グループワーク参加状況、提出物等を総合的に評価する。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	60			
その他	40				
履修上の留意事項	板書、プリント、ビデオ等、実習は今までに学んだことを実際の保育の場で実践し、成果を確かめる機会です。厳しい実体験の中から学校では得られない貴重な事柄をたくさん学びます。身につけていること、さらに高めなければならないことを整理して残り少ない期間を有効に過ごしましょう。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	実習の意義と目標・概要・心構え		
	2	福祉施設について	児童福祉施設について①		
	3	福祉施設について	児童福祉施設について②		
	4	利用者理解	障がいについて		
	5	福祉施設実習について	オリエンテーションについての注意事項		
	6	福祉施設実習について	実習先施設について		
	7	福祉施設実習について	実習目標について		
	8	福祉施設実習について	実習目標の設定について		
	9	実習記録について	実習ファイル等関係書類の確認・実習記録の意義		
	10	実習記録について	実習日誌の書き方		
	11	施設実習へ向けた総括	実習生の心得・注意、実習評価、実習報告書の記入、励ましの言葉		
	12	まとめ①	実習報告会・反省会・個別指導		
	13	まとめ②	実習報告会・反省会・個別指導		
	14	まとめ③	実習報告会・反省会・個別指導		
15	まとめ④	振り返り、まとめ			





授業科目	伝承遊びと発達	担当教員	浦島 葉子		
対象年次・学期	2年・後期	必修・選択区分	選択必修	単位数	
授業形態		授業回数	15回	時間数	30時間
授業目的	伝承遊びが子どもの発達に必要であることを学ぶ。				
到達目標	保育や福祉の実践現場で様々な伝承遊びを生かすことができる実践的な力を身につける。				
テキスト・参考図書等					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	<提出物> 提出期限・内容についての評価 <その他> 課題への積極性・創意工夫・チームワーク・理解・実践授業の参加状況による総合評価		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	40			
その他	60				
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション・伝承遊びの理解	伝承遊び理解・レポート		
	2	伝承遊び 実践	わらべうたあそび・手遊び・折紙等		
	3	伝承遊び 実践	おはじき・あやとり・お手玉等		
	4	伝承遊び 実践	こま・けん玉等		
	5	伝承遊び 実践	年齢別遊びの工夫		
	6	伝承遊び 指導の実際	指導案作成・活動準備		
	7	伝承遊び 指導の実際	指導案作成・活動準備		
	8	伝承遊び 指導の実際	活動準備・シミュレーション		
	9	伝承遊び 指導の実際	学んだ技術を使って実際に子どもと遊ぶ		
	10	振り返り・課題	実践の録画を見ることにより、振り返りを行い課題を見つける。		
	11	伝承遊び 指導の再考	指導案作成・活動準備		
	12	伝承遊び 指導の再考	活動準備・シミュレーション		
	13	伝承遊び 指導の実際	学んだ技術を使って実際に子どもと遊ぶ		
	14	伝承遊び 指導の実際	実践の録画を見ることにより、振り返りを行う。すべての実践の省察		
15	まとめ	すべての実践の省察・レポート			



授業科目	形態別介護技術 II		担当教員	前佛 誠	
対象年次・学期	2年・通年		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15回	時間数 30時間
授業目的	介護上のポイントと具体的な介護技術を学ぶ。基本的福祉用具について、その使用方法と介助の注意点を身につける。また、保育未来学科に学ぶ者が、視覚障害者（盲人）用文字としての点字を正しく理解し、障害者のコミュニケーション手段として、ある程度活用できることは意義深いことである。読み方、書き方の基礎・基本を中心に、正しい表記法で簡単な点字文章が書ける程度までを期待したい。また、点訳ボランティアに興味を持っていただけるとありがたい。				
到達目標	障がいをもつ対象に適した対応ができる。点字表記法の基本を理解し、簡単な点字文章の読み書きができる。				
テキスト・参考図書等	プリント教材・点訳のしおり 2019（令和元）年6月20日新版発行（社）日本点字図書館				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	80	定期試験、実技演習時の提出物・習熟度や、点字については、毎回の提出物の評価及び「読み」・「書き」を中心としたテストにより総合的に成績評価を行う。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	10			
その他	10				
履修上の留意事項	障がいをもちながらも自立した生活を送るためにはどのような援助が必要となるのか、対象者の立場になり一緒に考え、学んで欲しいと思います。実技も取り入れた授業を展開します。積極的な参加姿勢で臨んでください。また、点字についてはプリント及びテキスト「点訳のしおり」を活用し、いずれの回も点字文を作成し、毎回提出。点字は「読む」場合と点字盤で「書く」場合とでは表裏の関係になる。毎時間の授業が常に大切である。8回という非常に少ない授業時数であるので、気を抜くことなく参加することを期待する。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	形態別介護技術を学ぶにあたって	・形態別介護技術を学ぶ意義と必要な知識、・運動機能障がいと麻痺についての医学的理解		
	2	障がいの理解	・生活障がいと ICF の理解		
	3	視覚障がい者の介護	・視覚障がいの医学的理解、・疾患と生活の理解、・視覚障がい者の生活理解		
	4	視覚障がい者の介護（演習含む）	・基本となる支援の視点・移動時の介護技術（ガイドヘルプ）、・コミュニケーションの方法		
	5	聴覚・言語障がい者の介護	・肢体不自由者（児）の生活の理解、・ボディメカニクスの原理		
	6	肢体不自由者の介護	・肢体不自由者（児）の生活の理解、・ボディメカニクスの原理		
	7	肢体不自由者の介護（演習含む）	・車椅子の操作方法・身体介護の留意点（体位変換・移乗） ・福祉用具の活用方法		
	8	点字：オリエンテーション・盲人用文字	視覚障害者と文字、点字の歴史、身の回りの点字、50音		
	9	点字の読み書き（1）	濁音、半濁音、拗音、撥音、促音、長音、数字 等		
	10	点字の読み書き（2）	アルファベット、外来語、各種記号、各種点字器 等		
	11	点字の表記法（1）	仮名遣い、数字・アルファベットを含む文 等		
	12	点字の表記法（2）	分かち書きの原則① 等		
	13	点字の表記法（3）	分かち書きの原則② 等		
	14	書き方の形式	分かち書きの原則③ 各種書式、点字文章の読み書きドリル等		
15	点字文章の作成とまとめ	点字表記法の復習、点字文文章作成、まとめ			



授業科目	子育て支援	担当教員	佐々木 明美		
対象年次・学期	2年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15回	時間数	30時間
授業目的	保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援について、その特性と展開を具体的に学ぶ。				
到達目標	様々な場面における支援について学び、育児不安を抱える保護者等に相談援助の実践ができる。				
テキスト・参考図書等					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	70	試験、グループワークの取り組み状況、提出物、積極的な発言・質問を含む参加状況等から総合的に評価します。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	10			
その他	20				
履修上の留意事項	板書、プリント、グループワーク、ディスカッションなど、保護者理解と保護者支援について、自身の考えをもてるよう積極的に取り組んでください。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	保育とともに行う保護者を対象とした子育て支援	保育と関連して展開される子育て支援 関わりを通じた保護者との相互関係・信頼関係		
	2	家庭が抱えるニーズへの気づきと多面的な理解	家庭が抱えるニーズ、子育て家庭の地域交流		
	3	家庭の状況把握、子育て支援の計画	家庭の状況・状態の把握と分析		
	4	子育て支援の環境構成	関係構築のための環境		
	5	子育て支援の具体的手段	情報提供の方法		
	6	子育て支援の技術	保育士の保育相談支援技術		
	7	職員間の連携・協働の実際	保育所における体制構築		
	8	社会資源、自治体・関係機関や専門職との連携・協働の実際	社会資源と関係機関		
	9	保育所等における子育て支援	保育所と保護者との相互理解		
	10	特別な配慮を要する子どもおよびその家庭に対する支援	病気の子どもと家族への支援		
	11	子ども虐待の予防と対応	保育所での虐待予防・早期発見		
	12	多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解とその支援	支援の流れ（事例）		
	13	地域の子育て家庭に対する支援	保育所等を利用していない子育て家庭の現状		
	14	要保護児童等の家庭に対する支援とその実際	要保護児童と家庭への支援		
15	まとめ	まとめ			



授業科目	保育内容演習Ⅲ		担当教員	上山 七々子	
対象年次・学期	2年・通年		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	30回	時間数 60時間
授業目的	現場で生きる指導力を習得し実践する。 保育における「健康」の領域に対する理解を深め、健康で安定した生活をするための指導法と支援を学ぶ。				
到達目標	子どもの心身の発達や環境を考慮し、運動遊びを展開することができる。 実践に向けて、グループ活動に積極的に取り組み、円滑なコミュニケーションを図りながら計画的に練習と考察を重ねることができる。				
テキスト・参考図書等	0～5歳児の発達にあった楽しい！運動あそび 柘澤秋孝・柘澤友希 ナツメ社				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	<提出物> 提出期限・内容についての評価 <その他> 課題への積極性・創意工夫・チームワーク・理解・実践授業の参加状況による総合評価		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	40			
その他	60				
履修上の留意事項	授業内で資料を配布します。保存するファイルを用意して下さい。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	幼児体育の必要性・指導の在り方		
	2	運動遊び指導方法「基礎技能」	安全管理・全身運動		
	3	〃	集団あそび		
	4	〃	道具を使った運動あそび		
	5	〃	道具を使った運動あそび		
	6	〃	運動あそびの展開		
	7	運動あそび指導方法「あそびの実践」	発達に合った運動あそび（指導案の作成について）		
	8	〃	発達に合った運動あそび（考察）		
	9	〃	発達に合った運動あそび（練習）		
	10	〃	発達に合った運動あそび（実践）		
	11	領域「健康」について	内容の理解と考察		
	12	運動遊びを用いた子育て支援活動	内容の理解と考察		
	13	〃	内容の考察と組み立て		
	14	〃	内容の考察と組み立て		
	15	〃	制作及び実践練習		
	16	〃	制作及び実践練習		
	17	〃	制作及び実践練習		
	18	〃	制作及び実践練習		
	19	〃	全体リハーサル		
	20	〃	全体リハーサル		
	21	〃	全体リハーサル		
22	〃	子育て支援活動			



23	〃	子育て支援活動
24	音楽に合わせたダンス	リズムダンス・振付・構成
25	音楽に合わせたダンス	リズムダンス・振付・構成
26	〃	振付・構成
27	〃	練習
28	〃	発表・評価
29	運動あそび指導方法	運動補助について
30	まとめ	振り返り・評価



授業科目	保育実習指導ⅡB	担当教員	平原 由衣		
対象年次・学期	2年・前期	必修・選択区分	選択必修	単位数	
授業形態		授業回数	15回	時間数	30時間
授業目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習の意義を学び、学外での実習準備としての日誌の指導計画等を学ぶ。</li> <li>・保育実習Ⅱを踏まえたうえで、実習の総括や自己評価を行い、課題や学習目標を明確にする。</li> </ul>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前指導で学んだことを生かし実習で実践できるようにする。</li> <li>・実習後の自己評価や振り返りをしっかり行い、より良い保育者となるための課題を整理、表現できる。</li> </ul>				
テキスト・参考図書等	フォトランゲージで学ぶ子どもの育ちと実習日誌・指導計画/神永直美/萌文書林				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	授業態度・グループワークや作業に対する参加意欲、提出物等を総合的に評価する。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	60			
その他	40				
履修上の留意事項	<p>板書、プリント、DVD等、実習は今までに学んだことを実際の保育の場で実践し、成果を確かめる機会です。厳しい実体験の中から学校では得られない貴重な事柄をたくさん学びます。身に付いていること、さらに高めなければならないことを整理して残り少ない期間を有効に過ごしましょう。</p>				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	実習の意義と目標・概要・心構え・実習目標の設定		
	2	保育所実習について	実習記録の意義、実習評価、巡回時などについて		
	3	保育所実習について	礼状の書き方、必要書類の記入・確認		
	4	保育所実習について	オリエンテーションについての注意事項		
	5	部分実習について	年齢別の部分実習の説明と体験【製作】		
	6	部分実習について	年齢別の部分実習の説明と体験【製作】		

7	保育実習日誌について	日誌記入等についての指導
8	保育所実習へ向けた総括	実習生の心得・注意、実習ファイル、実習報告書等、関係書類の確認
9	まとめ①	実習報告会（グループワーク）・反省会・個別指導・礼状の送付
10	〃	実習報告会（グループワーク）・反省会・個別指導
11	〃	実習報告会（グループワーク）・反省会・個別指導
12	まとめ②	実習報告会（グループワーク）・個別指導
13	〃	実習報告会（グループワーク）・個別指導
14	〃	実習報告会（グループワーク）・個別指導
15	実習の振り返りとまとめ	実習の振り返りとまとめ



授業科目	保育実習Ⅱ	担当教員	平原 由衣		
対象年次・学期	2年・通年	必修・選択区分	選択必修	単位数	
授業形態		授業回数	45回	時間数	90時間
授業目的	子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して保育の理解を深める。				
到達目標	現場での保育の計画・実践・観察・記録および自己評価について取り組む。保育士としての自己の課題を明確にする。				
テキスト・参考図書等	実習要項				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	実習先からの評価、訪問指導時の準備・態度・報告内容、提出物等をもとに総合的に評価する		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	30			
その他	70				
履修上の留意事項	詳細は実習要項に記載				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	保育所の役割や機能の具体的展開	養護と教育が一体となって行われている保育		
	2	〃	保育所の社会的役割		
	3	〃	保育所の果たす責任とは		
	4	観察に基づく保育の理解	乳幼児の心身の状態や活動の観察		
	5	〃	保育士の乳児との関わりや援助方法		
	6	〃	乳幼児の生活の理解と適切な関わり		
	7	〃	保育士の幼児との関わりや援助方法		
	8	〃	保育所の生活の流れや展開の把握		
	9	子どもの保育および保護者・家庭への支援と地域社会等との連携	環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育		
	10	〃	入所している子どもの保護者に対する子育て支援および地域の保護者等に対する子育て支援		
	11	〃	関係機関や地域社会との連携・協働		
	12	指導計画の作成・実践・観察・記録・評価	全体的な計画に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解		
	13	〃	作製した指導計画に基づく保育の実践と評価		
	14	保育士の業務と職業倫理	多様な保育の展開と保育士の業務、職業倫理		
15	自己課題の明確化	振り返り			



授業科目	障がい児保育	担当教員	福井 一之		
対象年次・学期	2年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15回	時間数	30時間
授業目的	障害幼児の発達と特徴及び保育の実際を学び、子ども理解を深める。				
到達目標	子どもの特徴（障害など）と、保育実践の際の留意事項等が説明できる。				
テキスト・参考図書等	実践に生かす障害児保育・特別支援教育 前田泰弘編著 立元真・中井靖・小笠原明子著 萌文書林				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	60	授業「課題（提出物）」と定期試験をもとに、取り組み姿勢で評価する。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	40			
その他	0				
履修上の留意事項	教科書をもとに基本的な知識を学び、資料を活用しながら「課題」について話し合いをする、障害幼児の発達と特徴及び保育の計画、内容、方法の基礎・基本をしっかり学んでほしい				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	障害児保育を学ぶということ	「障害がある」ということについての理解		
	2	障害児保育の基本的な理解	発達の見方と「発達の評価、対応」		
	3	障害の理解と保育（1）	知的障害の理解と保育、聴覚障害、視覚障害の理解と保育		
	4	障害の理解と保育（2）	知的障害、肢体不自由、病弱の理解と保育		
	5	障害の理解と保育（3）	「発達が気になる子ども」の理解と保育		
	6	障害の理解と保育（4）	「発達障害」の理解		
	7	障害の理解と保育（5）	自閉症スペクトラム、学習障害の理解と保育		
	8	障害の理解と保育（6）	注意欠如、多動性障害の理解と保育		
	9	子ども理解に基づく保育計画	障害のある子どもとのかかわり方、計画の作成、記録		
	10	個別の指導計画（個別計画）	計画の立て方、記録、活用の仕方		
	11	保育の実際（1）	発達をうながす生活やあそびの環境、人のかかわり		
	12	保育の実際（2）	保育者のかわり、個別の配慮		
	13	職員間の協力関係	情報共有、合理的配慮の実際		
	14	家庭や関係機関との連携	障害の早期発見、発達相談、療育資源の活用		
15	まとめ	障害児の保育実践について（まとめ）			





授業科目	保育の理解と方法Ⅱ	担当教員	櫻井 かおる		
対象年次・学期	2年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15回	時間数	30時間
授業目的	・園生活の様々な場面（四季の移り変わりや行事など）で歌われる歌を、ピアノで演奏したり歌唱できるようにする。主に、童謡を中心に学習を進める。				
到達目標	・実際の保育現場で子どもと一緒に活動に取り入れられるように余裕を持ち演奏ができ、かつ歌唱内容にあった表現ができるようになる。				
テキスト・参考図書等	改訂 ポケットいっぱいのおうた／鈴木恵津子、富田英也／教育芸術社				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	85	実技試験・授業毎の課題曲演奏状況		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	0			
	その他	15			
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	弾き歌い、ハ長調の練習	手をたたきましょう、大きな栗の木の下で		
	2	弾き歌い、ハ長調の練習	手をたたきましょう、大きな栗の木の下で		
	3	弾き歌い、ハ長調の練習	どんぐりころころ、とんぼのめがね、すうじのおうた		
	4	弾き歌い、ハ長調の練習	どんぐりころころ、とんぼのめがね、すうじのおうた		
	5	ハ長調の練習	ゆき、たなばたさま、チューリップ、山の音楽家		
	6	ハ長調の練習	ゆき、たなばたさま、チューリップ、山の音楽家		
	7	ハ長調の練習	ゆき、たなばたさま、チューリップ、山の音楽家		
	8	弾き歌い、やや難しい伴奏で歌う	うみ、こいのぼり、たきび、ぞうさん、めだかのがっこう		
	9	弾き歌い、やや難しい伴奏で歌う	うみ、こいのぼり、たきび、ぞうさん、めだかのがっこう		
	10	弾き歌い、やや難しい伴奏で歌う	きよしこのよる、おしょうがつ、うれしいひなまつり		
	11	弾き歌い、やや難しい伴奏で歌う	きよしこのよる、おしょうがつ、うれしいひなまつり		
	12	弾き歌い、やや難しい伴奏で歌う	おなかのへるうた、おもいでアルバム、もみじ、アイアイ		
	13	弾き歌い、やや難しい伴奏で歌う	おなかのへるうた、おもいでアルバム、もみじ、アイアイ		
	14	弾き歌い、やや難しい伴奏で歌う	おもちゃのチャチャチャ、大きな古時計、いぬのおまわりさん		
	15	まとめ	振り返り・試験		



授業科目	こどもとレクリエーション		担当教員	長江 孝	
対象年次・学期	2年・後期		必修・選択区分	選択必修	単位数
授業形態			授業回数	15回	時間数 30時間
授業目的	幼児教育・学校教育の中で、「心を元気にする」ためのレクリエーション支援に注目が集められています。本演習では、レクリエーション支援の基礎を学びます。				
到達目標	レクリエーション支援者として、良好なコミュニケーションづくりの理論に裏付けられた信頼関係を築く方法（ホスピタリティ）や動機づけの理論に裏付けられた「自主的、主体的に楽しむ力を高めるレクリエーション活動の展開方法」（アイスブレイキング）を実施できるようになる。				
テキスト・参考図書等	楽しさを通じた心の元気づくり（レクリエーション支援の理論と方法）/日本レクリエーション協会/公益財団法人日本レクリエーション協会				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	提出物の提出状況・小テスト・演習時の実技を総合的に評価します。		
	レポート	0			
	小テスト	30			
	提出物	30			
その他	40				
履修上の留意事項	テキスト・プリントを基に授業を展開します。体を動かすレクリエーション活動を中心に行いますので、動きやすい服装で参加してください。授業参加態度を重視しますので、楽しく積極的な参加を期待します。フラットファイルを用意してください。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	授業内容と評価について		
	2	レクリエーション概論	レクリエーションとは？		
	3	レクリエーション支援の方法	信頼関係づくりの方法・ホスピタリティ		
	4	レクリエーション支援の方法	信頼関係づくりの方法・ホスピタリティ		
	5	レクリエーション支援の方法	良好な集団づくりの方法 アイスブレイキングモデル		
	6	レクリエーション支援の方法	良好な集団づくりの方法 アイスブレイキングモデル		
	7	レクリエーション支援の方法	良好な集団づくりの方法 アイスブレイキングモデル		
	8	レクリエーション支援の方法	自主的、主体的に楽しむ力を育むレクリエーション活動の展開方法		
	9	レクリエーション支援の方法	自主的、主体的に楽しむ力を育むレクリエーション活動の展開方法		
	10	レクリエーション支援の方法	自主的、主体的に楽しむ力を育むレクリエーション活動の展開方法		
	11	レクリエーション支援実習	プログラミングの立案		
	12	レクリエーション支援実習	プログラムの立案		
	13	レクリエーション支援実習	レクリエーション支援の実施		
	14	レクリエーション支援実習	レクリエーション支援の実施		
15	レクリエーション支援実習	まとめ			



授業科目	保育実習Ⅲ	担当教員	長谷川 香		
対象年次・学期	2年・前期	必修・選択区分	選択必修	単位数	
授業形態		授業回数	45回	時間数	90時間
授業目的	観察や子どもとの実際の関わりを通して子どもへの理解を深めるとともに、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に学ぶ				
到達目標	現場実習を通して、施設や保育士の役割、利用者の様子などについて理解を深める				
テキスト・参考図書等	実習要項				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	実習先からの評価、訪問指導時の準備・態度・報告内容、提出物等をもとに総合的に評価する		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	30			
その他	70				
履修上の留意事項	詳細は実習要項に記載				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	施設の役割と機能	施設における子どもの生活と保育士の援助や関わり		
	2	施設における支援の実際	受容し、共感する態度		
	3	施設における支援の実際	個人差や生活環境に伴う子ども（利用者）のニーズの把握と子ども理解		
	4	〃	個人支援計画または指導案の作成と実践		
	5	〃	子ども（利用者）の家族への支援と対応		
	6	〃	各施設における多様な専門職との連携・協働		
	7	〃	地域社会との連携・協働		
	8	保育士の多様な業務と職業倫理	施設保育士の役割の理解		
	9	保育士の多様な業務と職業倫理	施設保育士の役割の理解		
	10	保育士の多様な業務と職業倫理	施設保育士の役割の理解		
	11	保育士の多様な業務と職業倫理	施設保育士の役割の理解		
	12	保育士の多様な業務と職業倫理	施設保育士の役割の理解		
	13	保育士の多様な業務と職業倫理	施設保育士の役割の理解		
	14	保育士の多様な業務と職業倫理	施設保育士の役割の理解		
15	保育士としての自己課題の明確化	保育士としての倫理観と自己課題について			



授業科目	社会的養護Ⅱ	担当教員	佐々木 明美		
対象年次・学期	2年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	8回	時間数	15時間
授業目的	社会的養護Ⅰでの学びを基礎とし、施設養護及び家庭養護の実際について学ぶ。				
到達目標	社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解し、実践することができる。 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について討議および実践することができる。				
テキスト・参考図書等					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	60	グループワークの取組姿勢、提出物、試験等、総合的に評価します。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	30			
その他	10				
履修上の留意事項	事例検討を通して学びます。毎回、事例や必要に応じて資料等を配布します。各自保管し、指示されたときには見ることができるよう授業の際には持参してください。グループワークの際には積極的に参加してください。難しく感じても考えること、自分の意見を持ち、表現することが大切です。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	社会的養護の内容	オリエンテーション 社会的養護における子どもの理解		
	2	社会的養護に関わる専門的技術	保育の専門性に関わる知識・技術とその実践 社会的養護に関わる相談援助の知識・技術とその実践		
	3	社会的養護の実際①	日常生活支援に関する事例分析①		
	4	社会的養護の実際②	日常生活支援に関する事例分析②		
	5	社会的養護の実際③	治療的支援に関する事例分析		
	6	社会的養護の実際④	自立支援に関する事例分析		
	7	支援の計画と記録及び自己評価	アセスメントと個別支援計画の作成・記録及び自己評価		
8	今後の課題と展望	多様な課題への対応 まとめ			





授業科目	保育実習指導Ⅰ(施設)	担当教員	長谷川 香		
対象年次・学期	2年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15回	時間数	30時間
授業目的	保育実習の意義・目的、実習の内容を理解し、自らの実習課題を明確にして実習に取り組み、新しい学びや気づきを得る。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前指導で学んだことを活かし実習で実践できる</li> <li>・事後指導を通し、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする</li> </ul>				
テキスト・参考図書等	実習要項				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	調べ学習の取り組み状況、グループワーク参加状況、提出物等を総合的に評価する。		
	レポート	20			
	小テスト	0			
	提出物	60			
その他	20				
履修上の留意事項	板書、プリント、ビデオ、グループワーク等、実習は今までに学んだことを実際の保育の場で実践し、成果を確かめる機会です。厳しい実体験の中から学校では得られない貴重な事柄をたくさん学びます。身につけていること、さらに高めなければならないことを整理して残り少ない期間を有効に過ごしましょう。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	実習の意義と目標・概要・心構え		
	2	福祉施設について	養護系施設について		
	3	福祉施設について	障がい系施設について		
	4	福祉施設について	通所系施設について		
	5	実習事前オリエンテーションについて	オリエンテーションについての注意事項		
	6	福祉施設実習について	実習先施設について		
	7	実習要項・目標について	実習要項・実習目標設定について		
	8	実習記録について	実習ファイル等関係書類の確認・実習記録の意義、実習日誌の書き方		
	9	施設実習へ向けた総括	実習生の心得・注意、実習評価、実習報告書の記入、励ましの言葉		
	10	まとめ①	実習報告会・反省会・個別指導		
	11	まとめ②	実習報告会・反省会・個別指導		
	12	まとめ③	実習報告会・反省会・個別指導		
	13	まとめ④	実習報告会・反省会・個別指導		
	14	まとめ⑤	実習報告会・反省会・個別指導		
15	まとめ⑥	後輩への指導・礼状の送付			



授業科目	こどもと運動指導	担当教員	上山 七々子		
対象年次・学期	2年・前期	必修・選択区分	選択必修	単位数	
授業形態		授業回数	15回	時間数	30時間
授業目的	こどもの特徴を理解し、こどもの発達、年齢に合わせた運動あそびの展開ができるようにプログラムを立て、実践する。				
到達目標	様々な運動遊びについて理解し、こどもの発達、年齢に合わせた運動指導をおこなうことができる。				
テキスト・参考図書等	授業内で資料を配布します。				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	<提出物> 提出期限・内容についての評価 <その他> 課題への積極性・創意工夫・チームワーク・実践授業の参加状況による総合評価		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	40			
その他	60				
履修上の留意事項	実技を中心に行います。運動に適した動きやすい服装で授業に参加してください。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	運動あそびと環境		
	2	運動あそびと指導方法	集団あそびについて		
	3	〃	指導の基本と指導案作成について		
	4	年齢に合わせ運動あそび	年齢別の特徴と指導について		
	5	〃	指導計画と実践①		
	6	〃	指導計画と実践②		
	7	〃	指導計画と実践③		
	8	〃	指導計画と実践④		
	9	〃	指導計画と実践⑤		
	10	個々の能力に合わせた支援	実践の振り返り・こどもの発達の理解と支援		
	11	運動あそびの実践	目的に合った運動プログラム（作成）		
	12	〃	目的に合った運動プログラム（実践練習）		
	13	〃	目的に合った運動プログラム（実践）		
	14	〃	目的に合った運動プログラム（振り返り）		
15	まとめ	運動あそびの復習・ポイントの整理			



授業科目	実践ピアノ	担当教員	櫻井 かおる		
対象年次・学期	2年・後期	必修・選択区分	選択必修	単位数	
授業形態		授業回数	15回	時間数	30時間
授業目的	保育の現場において音楽活動を行うために必要なピアノ技術を習得する。個人のピアノ演奏技術の上達。				
到達目標	コードネームを理解し、簡易な伴奏付けができる。子どもたちと行う音楽活動に必要なピアノの演奏ができる。個人のレベルに合った独奏曲の演奏ができる				
テキスト・参考図書等	改訂 ポケットいっぱいのうた／鈴木恵津子、富田英也／教育芸術社 プリント配布				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	・実技試験（移調奏） ・連弾曲完成状況 ・移調楽譜提出状況 ・独奏完成度		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	30			
その他	70				
履修上の留意事項	繰り返しの練習が必要となるため、毎日練習すること。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	授業の進め方について		
	2	コードネームの理解	メジャーコードとマイナーコードについて、和音の構成を知る		
	3	こどものうた① 伴奏	コードネームによる伴奏付け(C,F,G)、セブンスコードについて		
	4	こどものうた② 伴奏	コードネームによる伴奏付け②(D,B♭,C7,D7,F7)、調性の理解		
	5	こどものうた③ 伴奏	伴奏のアレンジ法①		
	6	こどものうた④ 伴奏	伴奏のアレンジ法②		
	7	こどものうた⑤ 伴奏	活動立案 見極め実技テスト		
	8	ピアノアンサンブル①	鍵盤楽器でのアンサンブル		
	9	ピアノアンサンブル②	鍵盤楽器でのアンサンブル		
	10	ピアノレッスン①	各自のレベルに応じて個人レッスンを行う		
	11	ピアノレッスン②	各自のレベルに応じて個人レッスンを行う		
	12	ピアノレッスン③	各自のレベルに応じて個人レッスンを行う 連弾		
	13	ピアノレッスン④	各自のレベルに応じて個人レッスンを行う 連弾		
	14	ピアノレッスン⑤	各自のレベルに応じて個人レッスンを行う 連弾		
15	まとめ	発表、振り返り			

